



広大な苗木畑



全長 200m のあんずとサクランボハウス

肖宝祥 大櫻桃



肖宝祥 大櫻桃



品評会で金賞を受賞

世界が認めた「電子機能水」の実力!!

一般社団法人 地球環境改革再生機構 代表理事 太田雄一

1. 中国におけるコロナウイルスの防疫について

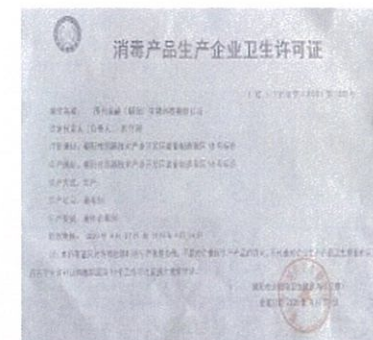
●中国においては、電子機能水を用いてコロナウイルスを殺菌することが確認され、二〇二〇年四月二十七日に消毒剤としての認可を受けることになりました。(写真①)

この決定に伴い、遼寧省朝陽市に四五〇〇㎡の防疫用電子機能水生成工場が建設され整備に入りました。

この工場には十本の製造ラインが設置され、それぞれのラインに十台のSARES型生成装置が設置される予定です。(写真②)

最終的にはこの工場と同レベルの工場が、中国全土に四力所建設され年内に全て稼働される計画です。

新型コロナウイルスの第二波、第三波や今後流行が想定される新型インフルエンザに対応するための基地として大きな役割を担うものと考えられます。



(写真①) 消毒製品としての許可証



工場全景



副市長が視察に来社



(写真②) 製造ライン

3. 一般社団法人 地球環境改革再生機構 (Hiroshima Office) 事業開始

二〇二〇年七月上旬をめどにUHI型十台からなる電子機能水生成基地が広島市内に完成予定です。

その後、広島から日本全国に「電子機能水」が出荷されることとなります。

現時点でも多くの農業法人から引き合いが入っており、日本も中国や東南アジア、メキシコなどに負けないような実績を作れるようになります。



広島は日本の「希望の地」という意味で、入口正面に「希望」の文字を掲げている。



広島事務所全景(原爆ドームから南へ 800m)



新事務所での初の聴講に集まった方々 (熱のこもった講習会でした)



研修室 (20名)



金賞を受賞したさくらんぼ

また、ここで生産しているリンゴやさくらんぼは品評会で金賞を受賞し、(12頁)習近平国家主席をはじめとする要人や省政府幹部への贈答用として使われます。

コロナウイルスの問題で中国全域の野菜や果物の生産量が落ち込んでいます。生産量を一・五倍以上にし、農薬を全く使わない電子機能水農法は中国で最も注目されている農法です。

2. 中国 電子機能水農業会議の開催

●二〇二〇年五月十七日、陝西省西安市において電子機能水農業会議が開催されました。



西安実験・実践センターでの勉強会

西安電子機能水展示基地は、全体で百haの面積があり、リンゴ、ぶどう、さくらんぼ、アメリカカンチエリー、あんず等の苗木を中心とした生産農場で、年間百万本以上を生産しています。種から成木にいたるまで、全て電子機能水を用いて生産しています。

